

### P3 南西諸島（琉球）海溝域における 3D 海底地形（アナグリフ）

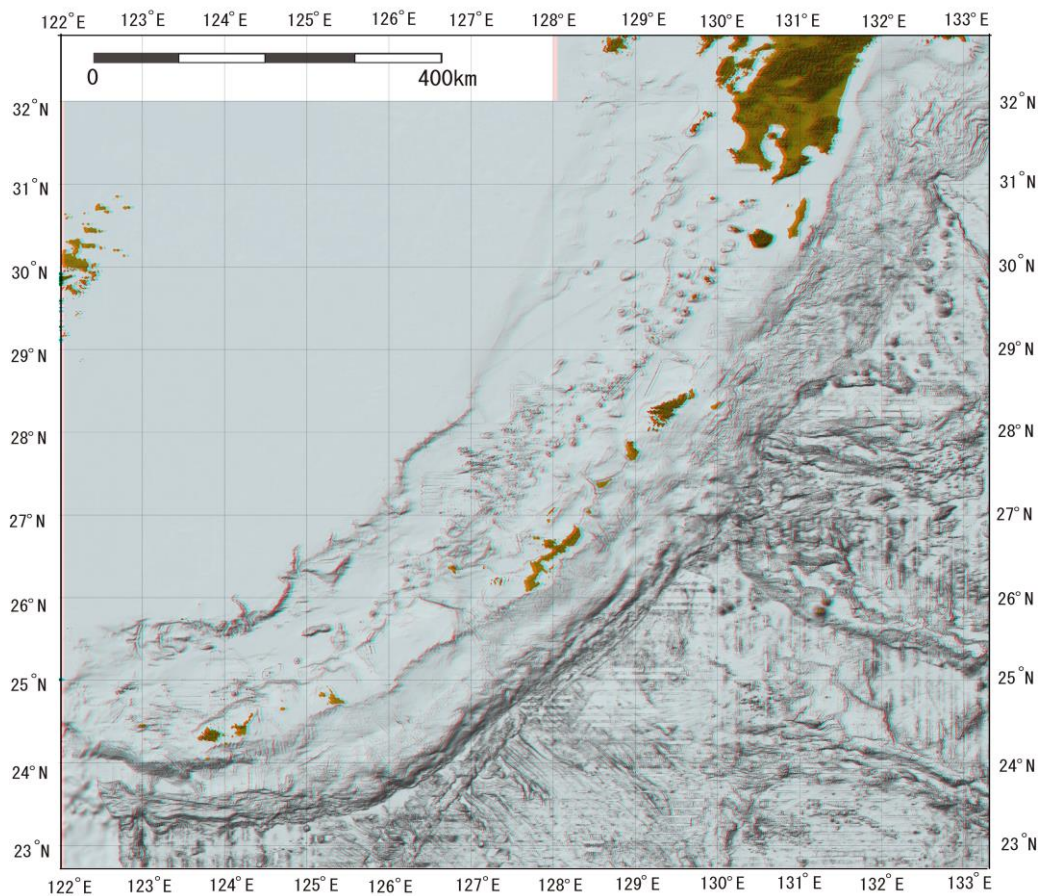
第五管区海上保安本部 泉 紀明、技術・国際課 海洋研究室 西澤あずさ  
海洋研究開発機構 木戸ゆかり、広島大学 中田 高・後藤秀昭  
海洋調査課 大陸棚調査室 堀内大嗣（発表者）

南西諸島海溝はフィリピン海プレートの西縁に位置し、最深部は 7500 m 近くに達する。海溝の西側には南西諸島弧があり、さらに西側にはプレートの沈み込みに伴って形成された背弧海盆である沖縄トラフが存在している。

この海域における海底地形・海底活断層の判読を行うことを目的として、150 m グリッド DEM (Digital Elevation Model) の作成を行った。水深データ作成において、海洋研究開発機構と海上保安庁ほかから得た測深データを集め、これをもとに立体視できる画像を作成した。

陸棚から続く海溝陸側斜面の北部では、地形の高まりの沈み込みに伴う皺状の地形が見られるが、南部では丸みを帯びた直線状の地形が多く存在している。フィリピン海プレート上では海山、海嶺、海台、海盆など起伏に富んだ形態が見られる。

この海域には過去に大きな津波被害をもたらした地震として八重山地震（1771 年）があるが、今回作成した図からはこの津波を引き起こしたと考えられる崩壊地形は見当たらなかった。



南西諸島（琉球）海溝周辺のアナグリフ画  
赤青メガネ（右目：青）をかけてご覧下さい